

旧カウンティ・ホールからテイト・モダンまで

テムズ河南岸を征く

近頃、明るい話題が乏しいここ英国だが、夏は確かにそこまで来ている！
ロンドンに数ある見どころの中でも水が恋しくなり始めるこの季節にぜひ訪れたいのがテムズ河沿いのスポットだ。今号では、テムズ河南岸、特に旧カウンティ・ホール周辺に重点を置いてお薦めポイントをご紹介しますことにしたい。



ロンドンを強く大きく育てた父なる流れ

人は、水なくして生きてはいけない。

古来より、文明は豊かな水流にそって発達するものと決まっているのも、この特性による。四大文明を例にとるまでもなく、常に水を必要とする人類は、大きな河のまわりに自然と集まるようになる。

大河は人々の喉を潤しただけでなく、しばしば氾濫により肥沃な土を運び、その流域に穀物の豊かな実りをもたらした。河は生命の源であり、人々の営みも、町も河から発したのだ。

ロンドンもまた、テムズという河のおかげで生まれた都市である。もともと、英国の先住民族だったケルト人が居住していたとされるが、ここに現在のロンドンの基礎となる町を築いたのはローマ人たちだ。

ローマ帝国がグレート・ブリテン島の征服に乗り出したのは約二千年も前のこと。紀元四十三年に第四代皇帝クラウディウスが大軍を率いて侵攻、ほどなくしてグレート・ブリテン島の南東部をほぼ制圧した。河は兵や物資を運ぶのに欠かせない輸送路であるとともに、敵から自分たちを守る防壁ともなってくれる。しかし、広い地域を治めるにあたっては、障害となる邪魔な存在でもあった。河によって分断されたままでは、人や物資の行き来も限られ、発展もおぼつかない。

各地で植民統治を展開していたローマ人だけあり、町づくりの優れたノウハウを既に確立していた。

橋が必要だ！

その橋を守るためにまず要塞が造られ、家々が集まり、やがては町となって植民地の要となる。橋と要塞を構築すべく、ローマ人技術者たちの調査が始まった。テムズ河を河口から川上へと向かって丹念に調べ、ようやく、あるスポットがみつかった。河口からさかのぼること約五十キロ。川幅もやや狭まり、そして何より橋げたを設置するのに十分な固さがあり、なおかつ、やや盛り上がった岸が河をはさんで両サイドにある場所だ。今のロンドン・ブリッジがある辺りだった。防衛上の理由もあり、ロンドン・ブリッジは、一七二九年にバットニー・ブリッジが造られるまで、ロンドン中心部ではテムズ河にかかる唯一の橋だったという。

町は河の北岸に置かれ、後年、単に「シテイ」と呼ばれるようになる。しかし、ローマ人が四一〇年に撤退したあと、ロンドンはいましばらく歴史の表舞台から遠ざかってしまう。

今日あるロンドンが、本格的に発展し始めるのは、ウィリアム征服王がウエストミンスター・アビーで戴冠してからだ。それまで長きにわたって政治の中心であったウインチェスターから、ロンドンへと権力も富も人々も移った。

それから約千年。七百万の人口を擁し、世界屈指の大都市のひとつとなったロンドンの、細かい発展の経緯については触れないが、テムズ河が常に大きな役割を果たしてきたことは説明するまでもないだろう。

この河の南、つまり「シテイ」の対岸の再開発が進められて久しい。今号では、ウエストミンスター・ブリッジから、テイト・モダンにかけて、テムズを眺めながら散策を試みたいと思う。

テムズ河にかかる橋は個性派ぞろい

テムズ河には合計 214 もの橋がかかっているが、ここでは、右の地図内にある橋のみを紹介することにする。

③ ハンガーフォード・ブリッジ Hungerford Bridge

1864 年完成 → 1979 年大改修
チャリング・クロス駅発着の列車が通るハンガーフォード・レールウェー・ブリッジとして完成。両脇に歩行者専用の橋を併設。シティ寄りの歩行者専用橋は、チャリング・クロス駅方面から



ロイヤル・フェスティバル・ホール方面へと渡るのに利用する人も多いことだろう。この橋からの眺めもすばらしいが、ウェストミンスター寄りの歩行者専用橋から望む、国会議事堂、旧カウンティ・ホールとロンドン・アイの眺めも一見の価値あり。

① ランベス・ブリッジ Lambeth Bridge

1861 年完成 → 1932 年架け替え
初代の橋を設計したピーター・パロウ (Peter William Barlow 1809-85) は、セント・パンクラス駅などを手がけたことで知られるウィリアム・パロウ (William Barlow 1812-1902) の実兄。

④ ウォータールー・ブリッジ Waterloo Bridge

1817 年完成 → 1942 年架け替え
英国軍が対ナポレオン戦争における勝利を確かなものにした「ウォータールーの戦い」の、2 回目の戦勝記念日 (1817 年 6 月 18 日) にオープン。ヴィヴィアン・リー主演の悲恋映画『ウォータールー・ブリッジ』(邦題『哀愁』) に登場する、ロマンチックなデザイン



の橋は初代のもので、ジョン・レニー (John Rennie the Elder 1761-1821) の設計。架け替えが提案された時には人々の猛反対があったという。

⑤ ブラックフライアーズ・ブリッジ Blackfriars Bridge

1769 年完成 → 1869 年架け替え、1910 年拡張



偉大な政治家、『大ピット』(息子は『小ピット』と呼ばれた) こと、ウィリアム・ピット William Pitt の名前をとって、公式には「ウィリアム・ピット・ブリッジ」と名付けられたが、人々はこれを無視。ついに「ブラックフライアーズ・ブリッジ」の名が定着してしまっただけという橋。

② ウェストミンスター・ブリッジ Westminster Bridge

1750 年完成 → 1862 年架け替え
ロンドン・ブリッジ、パットニー・ブリッジに続き、ロンドン中心部ではテムズ河にかかる第 3 の橋として誕生。



⑥ ミレニウム・ブリッジ Millennium Bridge

2000 年完成 → 2002 年修復
ミレニウム (2000 年) を記念して企画されたプロジェクトのひとつで、華しくオープンしたものの、大勢の人が同時に歩くと共鳴してひどく揺れることが判明。「wobbly bridge」(揺れる橋) とニックネームをつけられるに至った。修復されて 2002 年に再オープン。

⑦ サザーク・ブリッジ Southwark Bridge

1819 年完成 → 1921 年架け替え
ウォータールー・ブリッジと同じ、ジョン・レニー (John Rennie the Elder 1761-1821) の設計。ロンドン・ブリッジとブラックフライアーズ・ブリッジだけでは、激増する交通量に対応できず、急遽造られた橋。



⑧ ロンドン・ブリッジ London Bridge
現在のものは 1972 年架け替え
テムズ河にかかる橋の中で、最も有名な橋といえばこれ。ただ、現在の橋はあまりにシンプルでデザインであるため、「え、これがロンドン・ブリッジ?」と多くの観光客を落胆させている(タワー・ブリッジをロンドン・ブリッジだと思いつく人が少なくないというもうなげける)。ローマ人により、紀元 6 世紀ごろには、木造の橋がかけられていたとされている。しかし、童謡どおり、木造の橋は焼け落ちたり流されたりしたため、1209 年には石造りの橋となった。中世に入り、橋の上には民家、教会なども立ち並んだが、ロンドン大火の時には北側半分の民家が焼失したという記録も残っている。

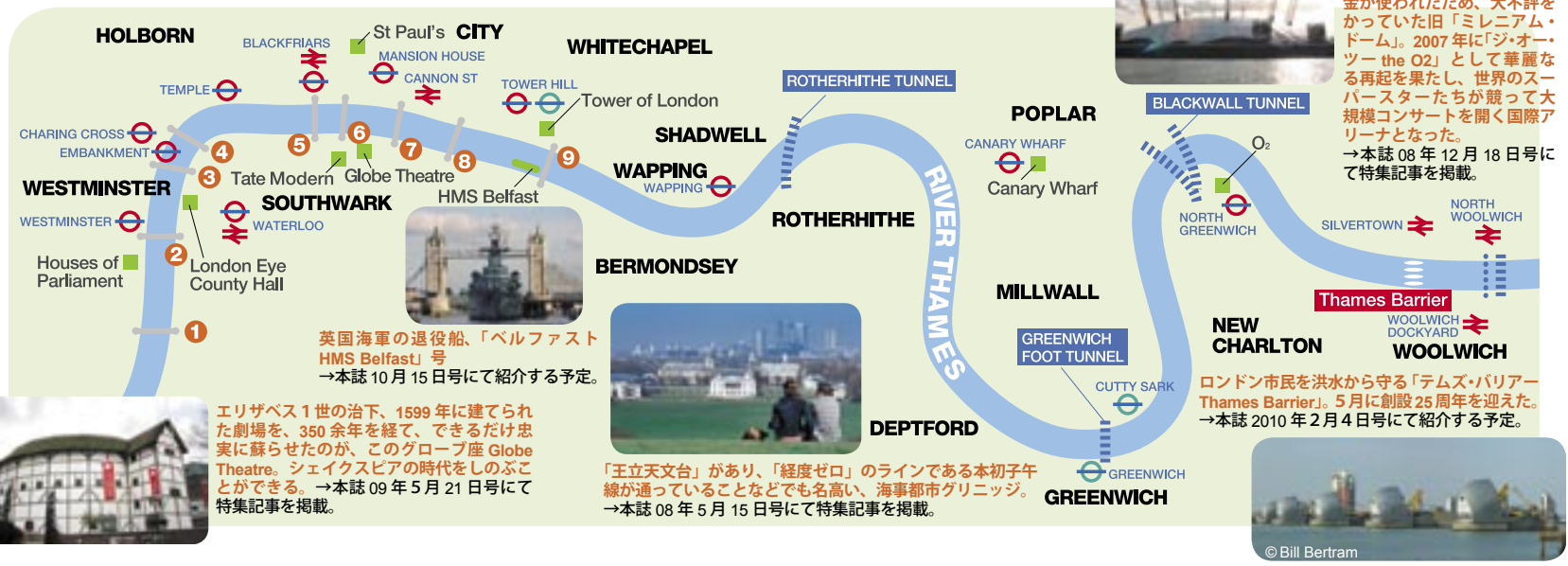
⑨ タワー・ブリッジ Tower Bridge

1894 年完成
ロンドンで最も絵になる橋。大型船が通過する時には橋げたがあがる=写真。なお、ロンドン・ブリッジより河口寄りには、この橋を入れて 2 つのみ。もうひとつは、1991 年に開通したクイーン・エリザベス・ブリッジ。



ウェストミンスター ~ テムズ・バリアー

今号では、ウェストミンスターからテイト・モダンまでを散策ルートとして取り上げるにとどめるが、10 月 15 日号では HMS Belfast 号とその近辺を紹介する予定。また、来年早々、テムズ・バリアーについての特集記事もお届けしたい。
※情報はすべて 2009 年 6 月 10 日時点のもの。



ロンドン・アイ London Eye

◆ 2000 年 3 月にオープン。年間 350 万人が利用。英国国内の数ある有料アトラクションの中でも、チケット売上げ枚数ではトップという人気のスポットだ。
◆ 高さ 135 メートル。晴れた日には 40 キロ先まで見渡せ、遠くウィンザー城を望むことができる時もある。1 まわり (「フライト」と呼ばれる) 30 分。最高 25 人まで乗れる 32 のカプセル (トイレなし) がゆっくりとまわる。
◆ 各チケットには時間が示してあるので、その時間にあわせて列に並ぶ必要あり。スタンダード・フライトの場合、チケットのビックアップに 10 分、列 (荷物検査を含む) に並ぶのに 30 分みておいてほしいとのこと。ファースト・トラックの場合は 15 分で OK。また、ベビーカーは持ち込めないで、チケットオフィス内のクロークに預けること (無料)。

London Eye
Riverside Building, County Hall
Westminster Bridge Road
London SE1 7PB
電話予約 (毎日 9:00 ~ 17:00)
Tel: 0870 5000 600
オンライン予約
www.londoneye.com

《オープン時間》
毎日 10:00 ~ 21:00 7・8 月は 21:30 まで、冬季は 20:00 まで
《チケット》
【スタンダード・フライト】
大人 £17.00
子供 (4-15 歳) £8.50
4 歳未満は無料
【ファースト・トラック】
大人 / 子供 £27.00 4 歳未満は無料
※このほか、シャンパン付フライトなど各種あり。また、カプセルの貸切 (£299)、結婚式をあげることもできる。

テイト・モダン Tate Modern

◆ 増え続けるナショナル・ギャラリーのコレクションのうち、英国芸術を専門とする「分室」として 1897 年にオープンしたテイト・ギャラリーだったが、コレクションは増える一方。ついに 1992 年、さらなる「分室」を設けることになり、2000 年に完成したのがこのテイト・モダンだ。
◆ 10 年以上も放置されていた火力発電所を利用した美術館で、テイト・ブリテン Tate Britain と名称を変えたテイト・ギャラリーが 16 世紀から 20 世紀までの英国芸術を幅広く展示しているのに対し、テイト・モダンではさらに近代美術に絞ってあるのが特徴。
◆ Level 7 にあるレストランはお薦め度高し。Level 2 にあるカフェよりやや割高とはいえ、オープン・サンドイッチなどカジュアルなメニューもあるのに加え、とにかく眺めが素晴らしい! レストランではアフタヌーン・ティーなども楽しめる。また、立ち飲みになってしまおう、バーのみを利用することも可能。用があってもなくても、この Level 7 を訪れることをお忘れなく。

Tate Modern
Bankside, London SE1 9TG
Tel: 020 7887 8888
www.tate.org.uk/modern/

《オープン時間》
日~木 10:00 ~ 18:00
金・土 10:00 ~ 22:00
《入場料》
有料特別展以外は原則として無料。
※ただし、常に寄付を募っている。わずかも良いので感謝の気持ちを寄付金箱に入れていただきたいもの。

結構使えるインターネットジャーニー

ロンナビ
暮らしに役立つ便利な電話帳
どんぴしゃのマップ付き

私のイ子オシスーパーマーケット編

ササツとできるごくウマ3選

クラシファイド・アド
(毎週木曜午後更新)

ジャーニーオリジナル日本語つき
週間テレビガイド (毎週金曜夕方更新)

シネマ・イベント・展覧会情報



英国の最新ニュース日本語版
(月~金毎日更新)

オンライン申込フォーム付
帰ってきたとぶちゃんを探せ

ジャーニーおすすめ
特集記事
バックナンバーもご覧頂けます

月間イベントカレンダー

旅行・航空会社・
人材派遣会社の最新情報 (水曜夕方更新)

www.japanjournals.com

ジャーニーのクラシファイド・アドなら
お申込みからお支払いまで オンラインでラクラク
掲載料はその場で自動計算
ご利用頂けるカード
Switch / Maestro / Solo
Delta / Master / Visa / JCB
American Express
Japan Journals Ltd
Journey Classified Dept.
www.japanjournals.com

旧カウンティ・ホール County Hall (Former)

1986年まで、ロンドン市庁舎だった建物。大阪の不動産業者「白山殖産」が1992年に購入。現在は以下のムーヴィアム、水族館、ダリ・ユニバース、ロンドン・アイのチケット・オフィスといったレジャー向け施設のほか、マリOTT・ホテル、小津レストランなども入っている。

County Hall, Riverside Building
Westminster Bridge Road
London SE1 7PB
www.londoncountyhall.com/

ダリ・ユニバース Dali Universe

◆シュルレアリスム(超現実主義)の代表的なアーティストである、スペイン生まれの芸術家、サルバドール・ダリ(Salvador Dali 1904-89)。絵画にしても、オブジェにしても、独特のひねり、ひらめきを感じさせ、見る者に驚きを与える作品が多いのも特徴だ。そのダリの絵画、オブジェ、服など500点を展示。扇情的なものもあり、小さな子供連れのご家族には向かないが、みごたえのあるコレクションが、文字通り「ダリの世界」へと誘(いざな)ってくれるだろう

◆併設されているカフェでは、典型的な英国式サンドイッチ、マフィン、ケーキなどを販売。また、出口近くにあるギャラリーのコーナーでは、美術書籍、ダリの作品のポスター、レプリカが購入できる。中には1万円もする商品もあり!

Dali Universe
Tel: 0870 744 7485
www.thedaliuniverse.com

《オープン時間》
毎日 9:30 ~ 18:00
《入場料》
大人 £14 / 学生 £12
子供(15-18歳) £9
(7-14歳) £7
(7歳未満) 無料
大人2人+子供2人 £38

ムーヴィアム Movieum

◆近年、活況を呈している英国映画界。「金にモノをいわせる」イメージの強いハリウッドに対抗し、質の高さを勝負をかけ、勢いにのっている感がある。この英国映画界の「財産」を中心に、熱烈なファンならずとも楽しめる、映画のあれこれを集めて一挙に公開しているのがここ。プチ博物館ともいえる場所だ。

◆往年の名作から最新作まで、映画で実際に使われた衣装、小道具・大道具などが間近で見られるほか、実際に自分でミニ・フィルム作りを体験できるコーナー

=写真すぐ上=もあり、子供も大人も、年齢に関係なく楽しめるよう工夫されている。

◆カウンティ・ホールのファースト・フロアを利用した館内では、「英国が生んだ名作の数々」「映画が作られるまで」「ジャンル別コレクション」「大スターたち」といったテーマ別に展示がなされている。入場者の平均滞在時間は約1時間半とのこと。

◆特別展示として、「ビートルズ・エキシビション Beatles Exhibition」が開かれている(追加料金は不要)。日本ツアー中に撮影された貴重なショット=写真右=を含む、数多くの写真やゆかりの品々が見られる。7月30日まで。

© Robert Whitaker/Getty Images Gallery

The Movieum
Tel: 020 7202 7040
www.themovieum.com

《オープン時間》
月-金 10:00 ~ 17:00
土・日 10:00 ~ 18:00
《入場料》
大人 £12
子供 / 学生 £10

ロンドン水族館 London Aquarium

◆ロンドン市内では唯一の本格的な水族館。サメをはじめとする、数多くの魚が悠然と遊泳する姿を観察することができる大水槽。魚を見上げることでできる「くぐり抜け」など、時間を忘れて見入ってしまうことうけあいの場所。

◆曜日、時間があえば、エサやりの様子を見学することもできる。例えばサメのエサやりは午後2時半から(火・木・土曜のみ)。

SEA LIFE London Aquarium
Tel: 0871 663 1678
www.sealife.co.uk

《オープン時間》
月-金 10:00 ~ 18:00
土・日 10:00 ~ 19:00
《入場料》
大人 £16 / 学生 £14
子供(14歳未満) £11.75
(3歳未満) 無料
大人2人+子供2人 £50

Fright Club
www.frightclublondon.com
《オープン時間》
日-木 12:30 ~ 19:30
金 12:30 ~ 21:00
土 11:30 ~ 21:00
《入場料》
大人 £10.00 / 学生 £7.50
子供(14歳未満) £7.50
大人2人+子供2人 £30.00

フライト・クラブ Fright Club

◆現代版「恐怖の館」。カウンティ・ホール内において、ゲームセンター(ナムコ・ステーション Namco Station)とならび、ティーンエイジャー向けのアトラクションといえるのがここ。「恐怖」をテーマに研究を続けていた、政府の極秘施設が開閉されるも、「研究対象物」は中に取り残されていた…という設定。10分あまり、恐怖体験が味わえる。かなりアナログな仕掛けの数々が、逆に新鮮? てんかん症(epilepsy)の人は入場できないので注意。

《オープン時間》
日-木 12:30 ~ 19:30
金 12:30 ~ 21:00
土 11:30 ~ 21:00
《入場料》
大人 £10.00 / 学生 £7.50
子供(14歳未満) £7.50
大人2人+子供2人 £30.00

あなたのブログをジャーニーの
ホームページにリンクしませんか?

個人ブログ 大募集!!

現在、インターネット・ジャーニーへのアクセス数は月平均約11万。

あなたが発信している英国での生活に関するブログを、
今よりちょっぴり多くの方にご覧いただくためのお手伝いができるかもしれません。

営利を目的としていない個人のブログであれば、リンクはもちろん無料です。

お申し込みはインターネット・ジャーニー「個人ブログの部屋」をご覧ください。

※掲載にあたり、事前に一定の審査をさせていただきます。内容によってはリンクをお断りしなければならない場合もございます。予めご了承ください。

www.japanjournals.com

インターネット・ジャーニー

旧カウンティ・ホール～テイト・モダン

おすすめ散策ルート

地下鉄ウェストミンスター駅で下車

ウェストミンスター・ブリッジをわたってまずは旧カウンティ・ホールへ。

おめあてのアトラクションを楽しんだあと、テムズ河沿いに整備された遊歩道「クイーンズ・ウォーク」を歩きテイト・モダンへ。写真を撮ったり、アイスクリーム屋さんで足を止めたりしながら、約1時間ほどの散策。

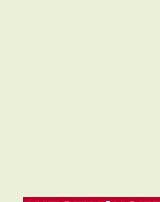
テイト・モダンのレストランで食事、あるいはカフェで休憩。テイト・モダンで美術鑑賞したら、ミレニアム・ブリッジを渡ってセント・ポール大聖堂へ。ここからバスまたは地下鉄で帰路につく。

クレオパトラの尖塔(オペリスク)

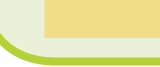
ネルソン提督によるナイルの海戦における勝利(1798年)、ラルフ・アバークロンビー中将によるアレクサンドリアの戦いにおける勝利(1801年)を記念して、1819年にエジプトから英国に贈られた。しかし、輸送費捻出のめどが立たず、実際にロンドンに着いたのは1878年。しかも途中、嵐のため海に沈みそうになるなど、現在のエンバנקメント沿いに落ち着くまで紆余曲折を経た。ニューヨークのセントラル・パークにあるオペリスクとはペア。なお、「クレオパトラ」と付いているが、彼女とはまったく関係のない時代(紀元前1450年ごろ)に造られたもの。



Cleopatra's Needle



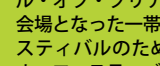
Queen Mary



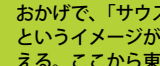
Embankment Pier



Hispaniola



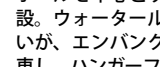
PS Tattershall Castle



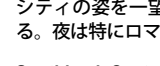
London Eye



London Aquarium



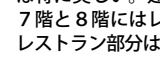
Westminster Pier



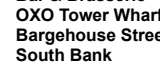
County Hall (Former)



Fright Club



Dali Universe



Movieum



SEA LIFE London Aquarium



「ロンドン」の語源は…?

ローマ人は、征服した先々で地名をつける際に、地元民がそれまで使っていた呼び名を利用して、ローマ統治時代のロンドンの呼称「Londinium」(ロンドンニウム)も、おそらくケルト人の言葉がもとになっていると考えられている。ただし、諸説あり、「広い河のそばの居住地」、あるいは「沼地の砦」を示す言葉がもとになった、はたまた「晴(曇)った水」を意味する言葉(つまり、テムズ河自身を指す言葉)が町のことも示すようになった、など、どれもなるほどと思わせる説を研究者らが展開している。「テムズ」にしても同様で、実は、語源は不明という。シーザーが「Tamesis」と名付けたことまでは分かっているが、それが何を意味したのか、はっきりとは明らかになっていない。

サウス・バンク South Bank

文字通り、テムズ河南岸のことだが、狭義には、1951年に、戦後の復興ぶりを内外に示すために開催された「フェスティバル・オブ・ブリテン Festival of Britain」の会場となった一帯のことを示す。そのフェスティバルのために建てられた、ロイヤル・フェスティバル・ホールを中心に、コンサート・ホール、ギャラリー、シアター、映画館などの文化施設が立ち並び、このおかげで、「サウス・バンク=文化・芸術」というイメージがしっかりと定着したといえる。ここから東へとテムズ河に沿って歩いていくと、オクス・タワーなどを経て、テイト・モダンやグロブ座のある「バンクサイド Bankside」へと至る。

ナショナル・シアター National Theatre

◆ロンドンに劇場は数あれど、国立劇場といえどここ。正式名称は「Royal National Theatre」。舞台は3つあり、1976年から77年、埋もれた名作にスポットをあてたりして、オープンを果たした。シェイクスピアものを含む古典的劇作から、現代劇まで幅広く上演。もちろん、国外の有名シアター・カンパニーによる舞台も観劇できる。

National Theatre
South Bank
London SE1 9PX
Box Office: 020 7452 3000
www.nationaltheatre.org.uk

サウスバンク・センター Southbank Centre

◆ロイヤル・フェスティバル・ホールを中心とする文化複合施設。ウォータールー駅から近く、エンバנקメント駅で下車し、ハンガーフォード・ブリッジを歩いて渡るルートをとれば、セント・ポール大聖堂を含む、シティの姿を一望のもとにできる。夜は特にロマンチック!

Southbank Centre
Belvedere Road
London SE1 8XX
Tel: 0871 663 2500
www.southbankcentre.co.uk/

オクス・タワー OXO Tower

◆「マル・パツ・マル」に見える文字が浮かび上がる塔が目印。夜は特に美しい。建て替えや大改装を経て、店舗、フラットのほか、7階と8階にはレストランを擁する複合施設となっている。現在、レストラン部分は、ハーヴィー・ニコルズが経営している。

OXO Tower Restaurant,
Bar & Brasserie
OXO Tower Wharf
Bargehouse Street
South Bank
London SE1 9PH
Tel: 020 7803 3888

タターシャル・キャッスル Tattershall Castle

◆英国北東部のハルという町で、1934年から旅客フェリーとして使われていた船。引退後、1981年から今の場所に保留され、食事も楽しめるパブとして第2の人生を送っている。なお、船内のテーブル席は窓側の人気が高いが、残念ながら予約不可。

Tattershall Castle
Kings Reach,
Victoria
Embankment,
Whitehall,
London SW1A 2HR
Tel: 020 7839 6548

ロイヤル・フェスティバル・ホール Royal Festival Hall

◆1951年に、「フェスティバル・オブ・ブリテン」のメイン会場としてオープン。以来、世界の一流アーティスト、オーケストラのコンサートをはじめ、バレエ、演劇など、様々なジャンルの文化イベントを催してきた。大改装が行われ、2007年にリニューアル・オープンを果たした。

Southbank Centre
Belvedere Road
London SE1 8XX
Tel: 0871 663 2500
www.southbankcentre.co.uk/

クイーン・エリザベス・ホール Queen Elizabeth Hall

◆ロイヤル・フェスティバル・ホールより規模は小さい分、室内管弦楽団、四重奏団などによるコンサートのほか、ダンス、オペラといったパフォーマンスをより身近に楽しむことができる。また、さらに小スペースの「パーセル・ルーム Purcell Room」も併設。

ハイワード・ギャラリー The Hayward Gallery

◆話題性の高いコレクションを紹介する特別展を定期的に行うことで知られる美術館。

ヒスパニョーラ Hispaniola

◆スペイン風の名前から、スコットランド生まれのスコットランド育ちの船。スコットランドの西部沖の島々、およびクワイド川を往來する遊覧船として活躍。1973年より現在の場所に移され、レストランに改装された。タバコを含む軽い食事から、ズッシリと重いフルコース・メニューまで用意されている。ボートなどがそばを通ると、少々揺れる点のみご了承。

Hispaniola
Victoria Embankment, Whitehall, London WC2N 5DJ
Tel: 020 7839 3011
www.hispaniola.co.uk